

## 2 児童による自主的な活動の例

第4学年4組 学級活動学習指導案

6月28日(木) 第5校時 場所 4年4組教室

1 議題名 「Mさんのおわかれ会のそだんをしよう」

2 学級の実態と指導の意図

1学期いっぱい、Mさんが転校することになった。この知らせを聞いて、多くの子が驚くと同時に、さびしい気持ちになった。当の本人も内心では、さびしい気持ちでいると思われる。しかし、人間は、人生の中で何回か別れを経験し、そのつど成長すると言われる。別れる者同士の心を通じ合わせて、単なるお楽しみ会のお別れ会にならないよう方向づけてやりたい。また、この活動を通してさらに、人と人のきずなを大切にすることを育てていきたい。

学級活動の話し合い活動の運営や進行の仕方については、まだ、子どもたちで進められるようにはなっていないので、事前指導に十分時間をかけていきたい。また、活発な話し合いになるように事前に話し合いノートに自分の意見や考えをまとめておいて、話し合いに臨むようにさせたい。さらに、友だちが発言しているときは、だまってい静かに聞くという態度も身につけさせたい。

3 議題選定までの経過

6月11日(月)の放課後、計画委員会を開いて議題案を整理したところ、Mさんが1学期いっぱい転校するので、「お別れ会」をしたいという議題案が提出されていた。議題選定の条件に照らしてみても、すぐ話し合ったほうがよいということになり、12日(火)に朝の会でクラス全員にはかった。その結果、6月28日(木)の学級活動の時間は、「Mさんのお別れ会の相談をしよう。」という議題で話し合うことになった。

4 実施計画作成の経過と今後の活動

- |                |                  |                      |
|----------------|------------------|----------------------|
| (1) 問題提示・選択    | 6月11日(月)         | 帰りの会(教師、全員)          |
| (2) 議題の決定      | 6月12日(火)         | 帰りの会(教師、全員)          |
| (3) 原案の作成      | 6月14日(木)         | 放課後(計画委員会)           |
| (4) 原案の提示      | 6月15日(金)         | 帰りの会(計画委員会)          |
| (5) 話し合いの打ち合わせ | 6月26日(火)         | 放課後(計画委員会、司会、記録、提案者) |
| (6) 話し合い       | 6月28日(木)         | 本時                   |
| (7) 実施と反省      | 6月30日(土)~7月7日(土) |                      |

5 本時のねらい

みんなで協力して、お別れ会にふさわしい集い活動の計画を自分たちの手で立てることができるようにする。

6 実施計画

議題	Mさんのおわかれ会のそだんをしよう。		
提案理由	Mさんは、1学期いっぱい、横浜の方へ転校してしまうのでさびしい。みんなで、お別れ会をして思い出にしたい。		
話し合いのめあて	○ 自分の意見や考えを進んで言えるようにしよう。 ○ 友だちが発言しているときは、だまってい静かに聞こう。		
司会	K 子	記録	(黒板) T 男 , (ノート) Y 子
副司会	N 男	提案者	Y 男 資料や準備 計画委員会原案
話し合う順序	時間	指導上の留意点	
1 はじめの言葉 2 今月の歌	5分	○ 元気に歌わせ、雰囲気や和らげる。	
3 議題の確かめ		○ 友だちと別れる会にふさわしい内容や方法を話し合うことを明確にさせるようにする。 ○ 大きな声でゆっくり説明させる。	
4 提案理由の説明 5 提案者への質問や意見			
6 話し合い (1) どんなことをやりたいか (2) グループをどのようにするか(種目別に) (3) 練習をどうするか (4) どんな係をつくるか	35分	○ 話し合いに先立ち、話し合いのめあてを司会より発表する。 ○ 時間的な制約やこれまでの経験をふまえて話し合わせる。 ○ 一人どれか一つはやるということでグループを作らせたい。 ○ 練習日を決めて練習に取り組むようにさせる。 ○ 時間があれば所属を決めさせる。時間がなければ、その日か翌日の帰りの会などで決めさせる。	
7 決まったことの確認 8 先生の話	5分	○ 係の児童に確認させる。 ○ 話し合ったことをしっかり認め、実践へ意欲を持たせるようにする。	
9 終わりの言葉			

7 評価

みんなで協力して、お別れ会にふさわしい集い活動の計画を自分たちで立てることができたか。

この方法は、特別活動のねらいである児童の自発性、自治性を育てるためには最適なものと考えられるので、学級生活の充実と向上に関することなどの活動内容は、この方法によって指導することがより望ましい。また、ここでは、学級や学校にかかわる諸問題について、児童に自主的に話し合う内容を決めさせて取り組ませることが大切である。

例示した指導案は、次の議題の条件をもとに、転校するMさんとお別れ会の計画を児童たちの手で立てさせたものである。

### 【議題の条件】

- 1 学級生活の充実と向上にかかわる問題であること
- 2 学級の児童全員に共同の問題であること
- 3 児童の自治的な活動として解決できる問題であること
- 4 児童自らが解決の方法を見いだすことができる問題であること

### 3 教師の指導と児童の自主的活動を組み合わせて指導する場合の例